

MOVE YOUR HEART!

進路通信第7号

「武義高生ここにあり」

という思いを抱かせて文化祭は幕を閉じました。3年生のみなさんはアクシデントを乗り越えてよくやり遂げましたね。1、2年生のみなさん、来年はさらに進化した文化祭にしてください。

さて、3年生のみなさん、これから先は気を緩めることができなくなります。就職の人はいよいよ就職試験です。総合型で進学を考えている人はエントリーから出願。推薦型で進学を考えている人は出願の申し出から書類作成。一般型で進学をめざす人は模試で明らかになった弱点補強。そしてなにより大学入学共通テストの出願時期に入ります。ほとんどの3年生にとって「濃い」時期が始まるのです。それが3月まで続くことを確認してください。文化祭準備と模試が重なった先月末の忙しさと緊張感がずっと続くということです。しかもミスが許されません。他人に迷惑はかからないかわりに（保護者や担任の先生にはかかります！）すべて自分の進路に直結してきます。学力、知力、体力に加えて自己決定力や事務処理能力も問われます。授業で教わったことだけでは乗り越えられない要素もあります。事務的なことについてはビ情科の人にはアドバンテージですね。とにかく失敗を防ぐためにお互いに「こんなことも知らんのか」は禁句にしましょう。

脅しているのではありません。それを自分の力でなんとかしていくことで社会に出るための登竜門をくぐるのです。「文武両道」を実践してきた力、文化祭で身につけた力、をもってすれば大丈夫です。保護者や先生を当てにせず、できるだけ自分たちの力で進んでください。特に登竜門を早くくぐった人は自分の経験を友達にも生かしてあげてください。そして全員が笑顔で卒業できるように協力しましょう。それが「受験は団体戦」といわれる所以です。7日の「進路ガイダンス」では具体的な事項に加えてそんな話もするつもりです。

1、2年生のみなさん、月末は期末考査です。普通科では学力テストの結果が返ってきていますね。見直しましたか。次の学力テストは11月はじめです。

《当面の進路に関係する行事（一部既報）》

9 / 7（木） 3年生進路ガイダンス（出願説明）6限

8（金）10（日） 3年ベネッセ駿台共テ模試

10（日） 全商英語検定

16（土） 就職試験開始

24（日） 全商情報処理検定

26（火）～29（金）前期期末考査

10 / 2（月） 後期始業

5（木） 3年生進路ガイダンス（面接・小論）6限

7（土） 3年生ベネッセ駿台記述模試

《事務的な事項の確認》（一部は昨年度既報）

- ・「書留」郵便をポストに投函してはいけない（必ず窓口に出す）。
- ・企業や大学等が郵便の受け取りを締め切る場合、「必着」と「消印有効」がある。「消印有効」ならば、最後は岐阜の本局まで走るという手がある。

- 金融機関の窓口は 15 時で閉まる。出願締め切りが日曜日になっていても、受験料は金曜日の 15 時を過ぎると振り込めないから、実際の締め切りは金曜日ということになる（コンビニ振り込み可、ならばよいが）。「奥の手」はない。
- 合格しても入学金を納めないと権利の放棄となる。特に国公立大の後期日程は合格発表日から入学金と前期授業料の振り込み締め切り日までが短いので注意しよう。
- 入学を取りやめる場合、納めた授業料は申請すれば返金されるが入学金は返金されない（原則）。併願の場合は手続きの日程にも気をつけよう。ただし、さまざまな（本当に）パターンがあるので募集要項をよくよく、よくよく読んでおこう。もちろん保護者にも知らせておこう。
- 要項を読んでもわからないことがあれば、直接先方（大学の入試課など）に問い合わせしてみよう。問い合わせることで不合格になる、などということとは決してない。
- 「奨学金」は学生自身がもらったり借りたりするもの。「教育ローン」などは保護者が借りるもの。従って返済義務を負う人も異なる。「教育ローン」は保護者に対して審査があり、貸し付けまでに時間もかかるので注意。
- 「授業料全免」とあっても、いったん納めたあと 6 月くらいに「奨学金」として同額が返ってくるというシステムの場合があるので注意が必要。なお、入学金や授業料の納付が難しい場合、「遅延届」を出すことで延期できる場合がある。ただし必ず事前の届が必要。要項にはくわしく記載されていない場合が多いので、先方に直接問い合わせしてみよう。
- 大学入学共通テストのマークシートは鉛筆でマークしなければならない。計算や下書きにはシャープペンを使ってもよいが、マークは鉛筆限定である。
- 「調査書」「推薦書」「面接・小論の指導」「図書参考文献」「必要なお金」「学割」これらはすべて「今いる」「すぐいる」「明日いる」と言われても無理である。

《おまけ》

本校での出来事ではないので恐縮だが、読んでいただければ。

文化祭前日の夕方、クラス活動が終わったあと、バンド発表の準備で機材を運んでいた男子生徒が階段から落ちてひどい骨折をしてしまった。その生徒はクラス演劇の主役でもあった。19 時くらいの出来事だったそうだ。翌日のステージにはとても立てない。代役を立てる余裕もない。

連絡を受けた担任は決断するしかなかった。

当日、運動部の主顧問で強面で知られるその体育教師が主役を演じる、というので体育館は埋まった。演題は悲恋がテーマの都市型ミュージカル。部の生徒にとっては普段ジャージで「お前ら～」とやる顧問が、おしゃれな衣装で「愛してる」などというセリフを口にするのだからさぞや楽しみだったろう。登場と同時に失笑が起き、うろ覚えのせりふ回しで苦笑、と予想された。悲劇のストーリーが喜劇の舞台になるかもしれない。

そうはならなかった。

興味半分の観客が多かったのは事実だし、笑いがゼロだったわけではない。仕方がないとはいえ演技もセリフもむごかった。だがそのクラス全員が必死だった。次第に笑いは影を潜め、観客もなんとか舞台を支えようという目が変わっていった。30代後半のその担任が前夜どれほどの努力をしたかと思うと、泣きそうになった。舞台と観客は一体になった。万雷の拍手で幕を閉じた。

文化祭の賞を決める審査会議の冒頭で「同情票ではなく、フラットに評価しましょう」との声が上がった。そのクラスが大賞を逃したことも誇らしいことだと思っている。

高校生活でしか経験できないことがある。その人だけの大切な思い出になっているだろう。